

中山間地域

目指す姿（10年後）

- 中山間地域ならではの資源や特性が再認識されるとともに、地域の価値ある資産として再構築され、大切に引き継がれています。また、その魅力や豊かさに共鳴し、地域に愛着と誇りを持つ内外の多様な人材が、将来への「夢や希望」を託す、様々なチャレンジを行っています。
- 地域に愛着や誇りを持つ人たちの一歩踏み出すためのチャレンジが次々と起こり、共感の輪が広がるとともに、地域に根差したリーダーが育ち、多様な人材のネットワークによって、地域資源を生かし、新たな価値を生み出す主体的な活動が展開されています。
 そこから、コミュニティの力の再生に向けて、誰もが必要に応じて活躍の機会を得られる地域運営の新しい仕組みが構築され、地域の課題解決につながる様々な取組が広がっています。
- 多様な企業や人材が、地域ならではの資源や基盤を生かして、新たな事業や経営発展にチャレンジし、働き続けられる環境が整いつつあります。
- 医療・福祉、交通などの日常生活の安心に直結する様々なサービスについて、デジタル技術を活用して効率的に提供するための仕組みづくりが進み、「スマート里山・里海」に向けたモデル的な取組が中山間地域全域で展開されています。とりわけ、交通アクセスについては、広域的な道路網と地域内の交通基盤が整備され、地域と都市を結ぶ広域幹線交通が維持されているとともに、新たな交通サービスの普及と地域の実情に応じた交通再編が進み、買物や通院等の日常生活の移動が確保されています。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
人材プラットフォーム「ひろしま里山・チーム 500」の登録人数	345 人 (R1)	843 人 (R7)	680 人	1,000 人
中小企業と外部人材のマッチングサポート機関を通じて外部人材を活用する中小企業数	—	86 社 (R7)	290 社	320 社
デジタル技術を活用した課題解決モデルの創出	—	36 件 (R7)	10 件以上	10 件以上 〔普及展開〕 20 件以上
地域で支え合う新たな交通サービスを交通計画に位置付け、取組を進める市町数	—	12 市町 (R6)	19 市町	19 市町

主な取組	
● 人材の発掘・育成、ネットワークの拡大 ➤ 中山間地域と都市部等とのつながりづくり支援補助金活用件数 21 件(累計 168 件)[R7～] ● 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援 ➤ 進出決定企業数 11 件(累計 68 件)[R3～] ● 中小企業の成長支援 ➤ 外部人材活用セミナーの開催回数 8回[R7]	● デジタル技術を活用した暮らしの向上 ➤ デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業補助金活用件数 14 件(累計 36 件)[R3～] ● 持続可能な生活交通体系の構築 ➤ デジタル技術を活用しながら、交通と生活サービスの相乗効果を生み出す「広島型 MaaS」の推進 [R3～] ● 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備 ➤ 現況1車線バス路線区間の道路整備

① 人材の発掘・育成、ネットワークの拡大

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 地域社会やコミュニティの中で、人と人がつながり、支え合う価値を大切にするため、地域における多世代のつながりや交流を促進するとともに、多様な主体が連携・協働して支え合える地域づくりを進めます。また、地域への愛着や誇りの醸成に向けて、地域において一歩前に踏み出すための様々なチャレンジを行っている人たちの活動を地域全体で後押しし、共感の輪を広げていきます。
- 地域づくりのフィールドワークやノウハウを学ぶ人材養成塾などを通じて、地域に根差した活動やコミュニティビジネスなどに取り組む人材の裾野を拡大し、中山間地域の将来を担うリーダーを育成します。
- 意欲ある実践者を中心とした人材プラットフォームを基盤として、里山・里海の豊かさを継続的に発信するとともに、その価値に共鳴し、地域と多様な形で関わる首都圏等の関係人口を拡大していくことにより、中山間地域を内外から支える人材の広域的なネットワークづくりを進めます。
- 人口減少下にあっても、地域の実情に応じて、主体性を発揮しながら地域づくりに参画できる最適なコミュニティのあり方を検討し、市町と連携して、日常生活の安心につながる持続可能な地域運営の仕組みづくりに取り組む地域を後押しします。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
チーム500の新規登録者数	目標	75 人	75 人	75 人	75 人	75 人
	実績	116 人	114 人	130 人	76 人	62 人
	達成状況	達成	達成	達成	達成	未達成

【評価と課題】

- チーム 500 の新規登録者数については、担い手不足により、地域・集落を支える住民自治組織などの活動の継続が困難となる地域もあることから、チーム 500 の活動に対する補助金の要件を、関係人口の創出に向け、住民自治組織と連携して行う取組に限定したことなどの要因により、目標の達成には至らなかった。
- チーム 500 を中心とした、地域で様々なチャレンジを行う人材確保は、一定の効果が出ているものの、草刈・清掃などの共同作業や伝統行事など、地域に根差した活動を担い、地域住民との結びつきを密にするようなリーダーが不足しており、地域活動を支える地域内外の人材の確保や、コミュニティの形成に向けた仕組みを構築する必要がある。

【主な事業】・ ひろしま里山・人材力加速事業……………482 ページ
 ・ 集落対策推進事業……………484 ページ

【令和8年度の取組】

- 人材養成塾等を通じ、中山間地域の将来を担うリーダーの発掘、育成を強化するとともに、地域に根差した活動が、持続的に主体的かつ継続的に展開され、地域が活性化していくよう、活動の支援や関係人口の創出を通じて、多様な主体が連携、協働して支え合える地域づくりを進める。

② 新たな事業展開に向けたチャレンジ支援

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 時間や場所にとらわれない柔軟な働き方や仕事も暮らしも充実させるワークスタイルへの関心の高まりを受け、里山ならではの環境やアクティビティを生かした生活の豊かさを先取りできる地域として、広く情報を発信します。
- 働く場所に捉われないIT関連企業を中心に、サテライトオフィスの誘致に取り組む市町を支援します。
- 中小企業の人材確保に向けて、即戦力となる県内外の専門人材(エンジニア等)とのマッチングの仕組みを構築します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
サテライトオフィス進出決定累計件数	目標	25 件	39 件	54 件	69 件	84 件
	実績 (累計)	27 件	38 件	47 件	57 件	68 件
	達成状況	達成	概ね達成	未達成	未達成	未達成

【評価と課題】

- サテライトオフィスの進出については、地域課題や産業構造等を踏まえた誘致方針の整理や、地方進出に関心の高い企業とのマッチング機会の創出に取り組んだ。しかしながら、企業の地方回帰の流れが弱まっていることに加え、企業が地方に進出する際に働き手の確保が困難となっている状況などから、サテライトオフィス進出決定累計件数については、目標の達成には至らなかった。
- 進出検討企業のニーズとして、地元事業者との連携などがあるため、市町との連携体制の強化や地元事業者とのネットワーク強化を進めることで、企業の進出確度を高める必要がある。
- また、新たな事業展開の促進に向け、多様な創業を促し地域への定着につなげるため、創業等に向けた環境を整えるとともに、他の創業希望者にとってロールモデルとなるような事例を創出する必要がある。

【令和8年度の取組】

- 企業の地方進出を促進するため、誘致に係る市町との連携強化や、企業誘致の際に協力が得られる事業者の掘り起こしなど、市町の誘致交渉を支援する。
- また、新たな事業展開の促進に向けては、社会性・継続性のある事業モデルの構築・展開を図るため、中山間地域の課題解決につながる起業等を後押しする。

③ 中小企業の成長支援

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 意欲ある事業者の新たな成長を後押しするため、多様なスキルや専門的な知見を生かして企業の課題解決に貢献しようとする首都圏等の副業・兼業人材と地域の事業者のマッチングの仕組みづくりに取り組む市町を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
副業・兼業人材の活用に向けたセミナー参加企業数	目標	83 社	131 社	131 社	121 社	111 社
	実績	13 社	135 社	220 社	309 社	367 社
	達成状況	未達成	達成	達成	達成	達成

【評価と課題】

- 副業・兼業人材の活用に向けたセミナー参加企業数については、中山間地域の中小企業は地域経済団体（商工会議所、商工会）と密接に連携しながら事業に取り組んでいることを踏まえ、関係市町と連携し、地域経済団体を巻き込みながらセミナーの実施に取り組んできた結果、目標を達成した。
- セミナー参加者のアンケートからは、副業・兼業人材などの外部人材の活用に取り組む意向のある企業の割合は8割以上と、外部人材活用のメリットへの理解も進んできている。
- 一方で、中小企業の外部人材の活用については、地域経済団体の伴走がポイントとなるが、地域経済団体自らは活用に向けた具体的な知見が乏しく、十分な伴走が困難な面もあることなどから、活用件数は伸びていない状況にある。

【令和8年度の取組】

- 地域経済団体等との連携を継続しながら、セミナーの参加者数を確保し、実際に副業・兼業人材が活用された事例を紹介するなど、具体的な活用イメージを持ってもらうことで、実活用に向けた機運を高める。
- また、実活用に向けて、中小企業の伴走支援を担う地域経済団体において具体的な知見が蓄積できるよう、個別セミナーの実施等を通じて、地域経済団体における外部人材の活用を促す。
- 加えて、地域経済団体等と連携しながら、市町に対する事業説明や有益情報の提供を継続的に行うとともに、補助制度の周知、事業者への支援策づくりの働きかけ等を行い、市町の主体的な事業推進体制の構築・強化を図っていく。

④ デジタル技術を活用した暮らしの向上

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- ウィズ/アフターコロナ時代において、将来にわたって安心して暮らしを営むことができる環境を維持していくため、暮らし全般にわたる全体最適を目指す「スマート里山・里海」の実現に向け、日常生活に直結する様々な分野において、デジタル技術を活用した新たな生活サービスを導入しようとする市町を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
県の事業を通じ、デジタル技術を活用した課題解決に向けて取り組む件数(累計)	目標	4 件	6 件	8 件	10 件	10 件以上
	実績	3 件	8 件	13 件	22 件	36 件
	達成状況	未達成	達成	達成	達成	達成

【評価と課題】

- 県の事業を通じ、デジタル技術を活用した課題解決に向けて取り組む件数については、「デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業補助金」を活用し、9市町が新たに 14 件の生活サービスを導入し、目標を達成した。着実に件数を増やすことができおり、モデル的な取組が中山間地域に広がってきている。
- 一方で、人口減少と高齢化が急速に進展し、中山間地域では、医療・介護・福祉、生活交通、買物など、日常生活に必要なサービスの維持が困難となっていることや、中山間地域特有の地理的条件といった問題等を踏まえ、引き続き、中山間地域における日常生活に直結するサービスの導入に向けた伴走支援など、市町の事業化への後押しが必要である。

【主な事業】・ デジタル技術を活用した中山間地域の生活環境向上事業……………486 ページ

【令和8年度の取組】

- 中山間地域の安心な暮らしの確保に向け、市町に対し、デジタル技術の選定支援や実装化への技術的助言等による支援を継続しつつ、補助金を活用した他市町の先行事例や全国の優良事例等の情報提供を通じて、導入を促すなど、更なるモデル的な取組の展開を図る。
- また、これまで実装してきたモデル的な取組等を、共通課題を抱えている市町へ普及、横展開していく。

⑤ 持続可能な生活交通体系の構築

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 地域の実情に応じた効率的で持続可能な交通体系の再編に取り組み、交通計画を策定する市町を交通会議の場などにおいて支援します。
- デジタル技術を活用した MaaS など、新たな交通サービスの導入に向けた取組や、住民自らが主体となって地域の移動を支えていくための取組への支援を通じて、より持続可能性の高い生活交通への再編を促します。
- 地域住民にとって必要不可欠な生活交通を維持・確保するため、国や市町と連携して、幹線等のバス路線や主要な航路等の運行等を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
新たな交通サービスの導入に向けた取組件数(累計)	目標	7 件	11 件	15 件	19 件	19 件
	実績	7 件	11 件	15 件	22 件	24 件
	達成状況	達成	達成	達成	達成	達成

【評価と課題】

- 新たな交通サービスの導入に向けた取組件数については、広島型 MaaS 推進事業をはじめ、「地域公共交通ビジョン」と連動して交通以外の分野との共創が進み、三原市、三次市の2市で、新たな交通サービスに向けた取組が進んだことにより、目標を達成した。
- 引き続き、市町の地域公共交通計画の策定を支援する中で、持続可能な生活交通体系を構築していく必要がある。

【主な事業】・ 広島型 MaaS 推進事業……………490 ページ

【令和8年度の取組】

- 引き続き、県民生活の利便性・快適性の向上に向け、各地域の特性に応じた地域課題を解決するため、地域ごとに最適化された交通ネットワークの構築や交通と生活サービスの相乗効果を生み出す市町の取組を支援する。

⑥ 中心地と周辺地域等の連携を支える基盤整備

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 中山間地域に住む人が、安全で快適な生活を享受できるよう、地域拠点と集落等の間を連絡するネットワークとなる基盤整備に取り組みます。
- バス路線1車線区間の解消に向けた取組など、地域の実情に応じた効率的な道路整備を推進します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
現況1車線バス路線区 間延長 (交通量 500 台/日以 上)	目標	36.8km	32.5km	32.3km	32.3km	31.2km
	実績	36.8km	32.7km	31.9km	31.9km	31.2km
	達成状況	達成	概ね達成	達成	達成	達成

【評価と課題】

- 「広島県道路整備計画 2021」に基づき、バイパスの整備や道路拡幅など、現況1車線バス路線区間を解消する道路整備に取り組んでおり、計画どおりに進捗していることから、目標を達成した。

【主な事業】・ 道路改良費……………412 ページ

【令和8年度の取組】

- 生活交通であるバス路線において、狭隘区間の解消によりバス等の安全性・定時性を確保し、サービスの維持を図るため、引き続き、現況1車線バス路線区間の道路整備を推進する。